

ヒットブランド の源泉

因幡電機産業株式会社



因幡電機産業株式会社 概要

本社所在地：大阪市西区立売堀 4 丁目 11-14

創業：1938 (昭和 13) 年 4 月

代表取締役社長：守谷 承弘

従業員数 (連結): 2,486 名 (2018 年 3 月 31 日現在)

事業内容：電設資材及び制御機器等の販売並びに
空調部材等の製造販売

H P : <https://www.inaba.co.jp/>

沿革：

- 1938年 大阪府堺市に因幡電機製作所として創業
- 1949年 大阪市東成区に因幡電機産業株式会社を設立
- 1974年 本社を大阪市西区立売堀に移転
- 1976年 事業部を因幡産業機器 (株)、因幡電設資材 (株)、近畿因幡電材 (株)、大阪因幡電機 (株)、東京因幡電機 (株) の5社に分社化
- 1978年 因幡産業機器 (株) 省力機器課を因幡電工 (株) として分離独立
- 1979年 イナバエンジニアリング株式会社を設立
- 1988年 因幡産業機器 (株)、因幡電設資材 (株)、近畿因幡電材 (株)、大阪因幡電機 (株)、東京因幡電機 (株)、因幡電工 (株) を合併
- 1992年 奈良県御所市に奈良工場を開設
- 1993年 茨城県筑西市に茨城工場を開設
- 1995年 福岡県小郡市に福岡工場を開設
- 1997年 東京証券取引所及び大阪証券取引所の市場第一部に指定
- 1999年 現本社ビルを竣工
- 2002年 東京物流センターを東京都江東区に開設
- 2004年 大阪物流センターを大阪府東大阪市に開設
- 2012年 東京本社を東京都港区に開設
- 2017年 株式会社パトライトと春日電機株式会社を経営統合



今回ご登場いただいたのは、大阪
市西区立売堀に本社を置く因幡
電機産業株式会社様。当連合会組合員
の電設資材卸商社と同時に、空調関連
部材などで数々のヒット商品を世に送
り出してきたトップメーカーでもあり
ます。

今年度より新組織となった電工カン
パニーから葛山豊 カンパニー長兼電
工営業統括部長、鮎川洋一 西日本第一
営業部長、芥子將司 営業企画課長の3
氏にお話しいただきました。

(文中での敬称は略させていただきます。)

真中右……………葛山 豊 電工カンパニー長 兼 電工営業統括部長
右から2人目……鮎川洋一 電工カンパニー西日本第一営業部長
右……………芥子將司 電工カンパニー営業企画課長
左から2人目……鷺田章雄 電材カンパニーJAPPLY部長
左……………木村 聡 電材カンパニーJAPPLY部管理グループ長



空調工事の歴史を変えた!

因幡電工 ヒットブランドの軌跡

編集部 因幡電機産業がメーカー機能を持つに至った経緯について教えていただけますか。

葛山 現在、メーカー機能を主に担っているのは当社因幡電工になりますが、きっかけは1970年はじめ、因幡電

たのは溶水クリップです。ソルデイ発売後しばらくして、お客様から「ソルデイの電気的特性を利用して、水道管の凍結解氷ができないか」という相談を頂いたことをきっかけに開発しました。その後も被覆銅管用ベンダー『ラクベーン』や被覆ストリッパー『ネオスカット』など銅管工具を次々と開発、全国の水道工事店へ販売し、メーカーとして

機が家電販売から撤退した際、某家電メーカーから炎の出ない電気ロウ付機の開発を依頼されたことです。1973年に因幡電工オリジナル商品『炎の出ない電気ロウ付機ソルデイ』を開発、発売し、全国に広がり、独自の販路も開拓できたことから、本格的にメーカーとしてスタートすることになりました。

葛山 ソルデイに続いて開発し

の地位を築いていきました。
編集部 なるほど。当初は工具類をメインに開発されていたわけですね。

鮎川 ただ、工具類は売り上げの急拡大は難しく、消耗品的な製品開発も必要だと考えていました。ちょうどその当時（1970年代）は、家庭用ルームエアコンが「ウインドタイプ」から「室内機・室外機」に分かれる「セパレート



タイプ」に変わりつつあった時代です。室内機と室外機をつなぐ銅管の需要拡大に着目し、1980年代に銅管と保温材を一体化した空調用被覆銅管『ペアコイル』を開発しました。当時としては高価な製品でしたが、施工性の良さから全国のエアコン工事業者に普及しました。

葛山 今では当たり前の工事材料として使われています。

エアコン用配管化粧カバー「スリムダクト」の誕生

編集部 因幡電工の代名詞とも言えるスリムダクト開発のきっかけは。

葛山 「セパレートタイプ」のルームエアコンの普及に伴い、当時室外機の被覆銅管にテープを巻いて施工する方法が主流でした。しかし、美観の悪さと紫外線劣化による保温材の損傷が問題となっており、塩ビ管を通して保護したり、また雨樋を加工して覆う

方法もありましたが、施工面で問題ありました。工事業者様から、簡単に被覆銅管を保護できるものがないかとの要望があり、1980年に電線用のカバーをヒントに生まれたのが『スリムダクト SD シリーズ』です。



編集部 スリムダクトSDの特長について教えてください。

鮎川 カラーバリエーションはホワイト、アイボリー、グレー、ブラウン、ブラックと様々な壁色にマッチするカラーを取り揃えています。使用材料の塩化ビニルには耐候処方を追加、高い難燃性を有し、被覆銅管や保温材の万一の火災延焼に備えることができるだけでなく、施工性や切

断性にも優れた弾性や耐衝撃性を有しています。美しさと安全性・施工性にも配慮した製品としてご好評頂いています。

編集部 他は、どのようなラインナップですか。

芥子 1990年台後半、ルームエアコンの販売台数の急速な拡大に伴い、特化した「LDシリーズ」を2002年市場へと投入しました。

2011年には、これまでのスリムダクトとは違う「新型浮かし工法」を採用、市販の支持金具に取り付ける事ができ、ラッキング感覚で簡単に施工する事が可能な「PDシリーズ」を発売しました。Dシリーズ」を発売しました。軽さと丈夫さを兼ね備え、丸みを帯びた形状で、スリムダクトのイメージである美観性だけでなく安全性、耐候性にも優れた化粧カバーです。発売して7年が経過しますが、最近では学校空調工事の普及とともに販売数量も拡大しており、弊社の主力製品となっ

ています。



鮎川 これ以外のシリーズも含め、工事業者様からの御要望や御意見を元に、絶えず製品に改良を加えたラインナップ展開をしています。

**お客様のニーズを
とりいれたモノづくり**

編集部 スリムダクトがヒットブランドとして確立するまでには様々な課題やご苦労があったかと思えます。

葛山 1979年、開発コンセプトを「機能性と美」として、『樹脂製配管ダクト スリムダクト』がデビューしましたが、当時、材料費用が200円程度のテープ巻き工事に対し、費用はその10倍です。発売当初は、なかなか市場には受け入れてもらえませんでした。

編集部 どのようにしてその苦境を乗り越えたのでしょうか。

鮎川 実際に見てもらえれば一目瞭然と、施工写真を掲載したカタログやサンプルボードを作成し、「スリムダクトを使用した施工とテープ巻き施工」での美観性の違いを営業マンが時間をかけて地道に説明することで乗り越えていき

ました。

また、ちょうどその当時の人々のライフスタイルはアメニティの言葉に代表される快適性や豊かさを求めるものであり、ルームエアコンの急速な普及も追い風となり、時代のニーズに合致したスリムダクトの普及は加速度的に進みました。その後も、お客様のニーズを取り入れながら、パーツラインナップを増やしていき、長年にわたって「エアコン配管化粧カバー」＝「スリムダクト」として歩んでいます。

**空調工事業界の
歴史はここから**

編集部 新たなルームエアコン時代の幕開けに相応しい画期的な商品だったわけですね。

葛山 1980年代、弊社がルームエアコン工事に必要な室外機用架台、ドレンホース、エアコン用パテ、室外室内を貫通させる化粧部材等をリー

ディングカンパニーとして次々と開発していき、エアコン空調工事部材＝INABA DENKOBRANDの名前は世間に認知して頂ける様になりました。

鮎川 弊社の商品名であるペアコイル＝空調用被覆銅管、スリムダクト＝配管化粧カバーとも一般名称として認知して頂ける様になったのは嬉しい限りです。

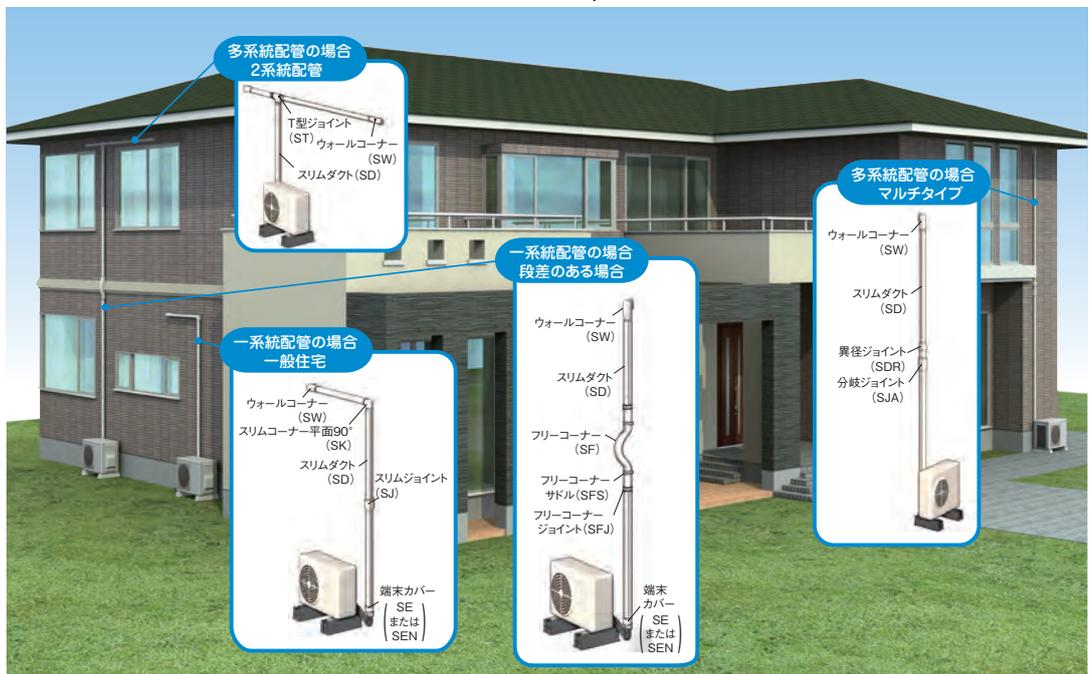


編集部 最後に、読者の電材卸店の方へメッセージを。

葛山 今後市場からの声を聞き、ニーズに対応した製品を開発・改良し、皆様が安全に生活し、人手不足軽減に貢献する省力化製品の発売

に、より一層の努力を重ねていく所存であります。

茨城工場、奈良工場内に併

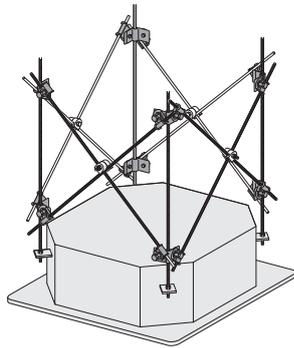




設している「ショールーム」では、本日もご紹介した製品以外に「防災製品」、「給排水製品」など住宅設備、ビル設備の2つのゾーンに分けた弊社製品を展示しております。また、弊社製品を実際に触れて身近に感じていただけるよう、ショールーム内には施工体験ゾーンも設けています。お近くにお越しの際には是非お立ち寄り下さい。（要事前連絡）

大阪府知事表彰（発明功績者）受賞！ 振れ止め支持金具クロスロックシリーズ

— 因幡電工の —
イチ推し!
ICHIOSHI
ご紹介



しかし、現場作業者数の減少・高齢化が進み、性能・施工性ともに優れた支持金具製品が望まれている中、2017年10月市場投入したのが、「クロスロックシリーズ FLV」です。挟むだけで仮

2011年3月の東日本大震災以降、地震発生時の空調室内機揺れ対策として振れ止め施工をされるケースが一般的になりつつあります。

震災被害をふまえて改定が施された「2014年版建築設備耐震設計・施工指針（日本建築センター）」では「吊りボルトで耐震支持する場合には、（中略）自重支持ボルトと斜材とを緊結する部材は締め付け具を用いクリップ等は使用しない」という指針が発表されました。

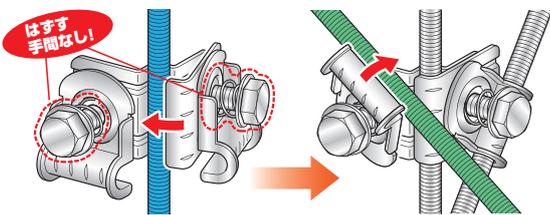
止めが可能、当社従来品（FLV）比で約50%の施工時間短縮を実現しました。

この製品は「2014年版建築設備耐震設計・施工指針」に適合しており、新潟中越地震（小千谷波）と東日本大震災（仙台波）を再現した加振試験を実施し性能・信頼性も確認されています。競合他社が乱立する中、驚異的な施工性の良さが認知された大ヒット製品です。

2019年4月には、大阪府知事表彰（発明功績者）を受賞しました。

STEP 1 仮施工
吊りボルトに挟むだけ!

STEP 2 仮施工
振れ抑制ボルトも挟むだけ!



STEP 3 仕上げ
電動ドライバーで締めるだけ!

施工・耐震試験
ムービー公開中!



イベートブランド「JAPPY」

因幡電機産業は、空調関連部材のブランドだけでなく、電気工事業者向けのプライベートブランド展開も行なっています。

同社のプライベートブランド「JAPPY」について、鷺田章雄 電材カンパニー 商品統括部 JAPPY 部長、木村聡 同 JAPPY 部 開発課 管理グループ 長の二人にお話を伺いました。

「JAPPY」とは

『日本の電気工事をHAPPYに。』をブランドスローガンに、電設資材を中心に幅広いアイテムを揃えた、因幡電機産業のプライベートブランドです。ネーミングの由来は「JAPAN」+「HAPPY」=「JAPPY」。

「因幡電機産業の80年の歴史を支えていただいている専門メーカー様の商品開発力をもとに、商品企画から製品開発、流通加工、デリバリーに至るまで、お客様のニーズに応えられる体制を目指しています。」

因幡電工のように工事業者様誰もが知っているブランドになることを目標に、工・販・製の架け橋となり、共存共栄の関係で電材業界を盛り上げていきたいと思っております。」(鷺田部長)

ブランド開発の背景

「2000年代初頭、照明器具の価格面での競争力強化を目的に、当時取引のあった照明器具メーカー様数社と協力し、『JAPPY



ホームページリニューアル!

より見やすく、商品検索しやすくなりました!



共存共栄の理念が生んだプラ

PYライティングカタログ』を発売したのがスタートです。当時は、総合メーカーの拡大や異業種の業界参入といった変化の時代でもありました。時代の流れを背景に、因幡電機だけでなく、お客様の商品競争力強化のため、その他の電設資材にまでブランドを拡充することを決定しました。

現在、高い技術力を持ちながら、全国的には名前の知られていないメーカー様の製品電工工事業界にはまだ知られていない便利な製品を中心にピックアップ。電工工事業者様が今現在必要とする製品から『こんなモノもあるんだ』と感じてもらえる製品まで、ラインナップを拡充したい。それによって販売会社様の事業に貢献できたらと思っています。」(鷺田部長)

ラインナップ

「2010年に8ページ19品種(100アイテム)で発刊した『JAPPY総合カタログ』は、2019年版では188ページ、約220品種1500アイテムのラインナップとなっています。前述の『JAPPYライティングカタログ』は電工工事業者様が一般的に使用する住宅照明を中心に162アイテムをラインナップ。他に、『ケーブル用防災製品カタログ』※もあります。これからも現場の声を大切に活動したいと思っています。」(木村グループ長)

※建築基準法および消防法で定められた防火区画の各種配線・配管の貫通のための防火区画貫通措置部材。

